

1月3日 (火)

宝を積むところ

聖書朗読 マタイ 6：19～24

自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。・・・自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。

マタイ 6：19～20

皆さんのお宅の庭にも、植木や花壇、お子さんのおもちゃなどもあるかと思いますが、古い硬貨はいかがでしょう。そのようなものは、めったにないのではないのでしょうか。けれども、2015年、スイスのある農夫の土地で硬貨が数枚見つかったので、さらに地面を掘ってみると、なんと4166枚もの古い硬貨が見つかったのです。

調査によれば、その土地のかつての所有者が、長年に亘りこれらの硬貨を貯金として貯めていたが、再びそれらを手にすることがなかったのだらうということでした。急遽その土地を離れなければならない事情があったのでしょうか。あるいは、埋めた場所が分からなくなってしまったのでしょうか。それとも、亡くなってしまったのでしょうか。いずれにせよ、その人は自分でせっかく貯めたお金を使えなかったのです。

この世のいのちと所有しているものは一時的なものです。伝道者の書5：15には、誰も、自分の労苦によって得たものを『何一つ手に携えて行くことができない』とあります。皆、この世の宝はすべて、残していくことになるのです。

山上の説教にもあるように、イエス様は、宝をどこに蓄えるか気を付けなさいと教えておられます。神の御国か、この世か。私たちは宝を積むところを選ぶことができます。そして、私たちが自分の望むものだけに思いを向けるなら、それらの望みは、様々な事情や人に妨げられるでしょう。けれども、イエス様が私たちのためになされる事に思いを向けるなら、私たちの積む宝が安全であると確信を持つことができます。皆さんはどこに宝を蓄えますか。

讃美歌 513

祈り 親愛なる主よ。どうか真に大切なことに私の思いを向けさせてください。そして、この世にあって、あなた様が与えてくださった様々なものを、自分の財産としてではなく、あなた様に仕えるための道具として用いることが出来るようにしてください。天に宝を積むことから思いを離さずにいられるよう助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アンドリュー・フィリップス
テネシー州 コロンビア

1月4日 (水)

思いはどこに

聖書朗読 マタイ 6：25～34

自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。

マタイ 6：25

「体重を減らそうとしても、また戻っちゃう」。「体重管理しているんだけど、下がってはまた上がってしまうのよ」。笑い話のようですが、本気で体重と格闘しながら日々過ごしているとしたら、それは笑える話ではないでしょう。カロリー計算をし、炭水化物は摂らない、脂肪は摂らない、あれとこれだけは食べてもいいけれど、あれは食べてはだめ。日々これを繰り返すのです。けれども、このようなとき、その人の思いは食べ物と自分自身に向いているのです。

からだについては、どうでしょう。気に入った服がないことを理由に、人の集まりに行かなかったことが何度あったでしょう。このようなことは、思いが自分のからだに向けられていることの現れでしょう。こうしたことは、つまらないことへの執着、自分自身への執着なのです。

イエス様は、肉のからだの必要について、心配しないようにとおっしゃっています。私たちのいのちは、必要以上の十分な食べ物と衣服で満たされています。聖書は今日の箇所、必要のないことに目を向けないようにと教えています。まず神の国と神の義を求め、他のものは神にお任せしていきたいと思います。

主よ、わたしが日々あなたに捧げる祈りは三つ。

もっとはっきりあなたを知り、

もっと心からあなたを愛し、

もっと近くであなたに従う、

日々そうあるようにとわたしは祈る。

—————Richard of Chichester

讃美歌 494

祈り 親愛なる主よ。自分自身ではなくあなた様に思いを向けるよう気付かせてくださり感謝します。私をとおして、あなた様のみちからを働かせてください。それによりあなた様に栄光を帰すことができますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

サンデ・ダーリティ
カリフォルニア州 マリブ

1月5日（木）

権 威 を 認 め る

聖書朗読 マタイ 8：5～13

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。」 マタイ 28：18

今日の聖書箇所でマタイは、イエス様が、ツァラアトを患っている人やペテロのしゅうとめ、悪霊につかれた男たちやその他大勢の者たちを、どのように癒されたかについて記しています。この当時、多くの人々がイエス様の癒しのみちからを信じていたという事実は、彼らがイエス様の後をついて行き、触れていただこうとし、また、みことばを請い求めていたということからも、明らかに分かります。

今日の箇所にある百人隊長も、イエス様にしもべの癒しを求めていることから、そのみちからを信じていたことが分かりますが、他の大勢の者たちとは別のものをイエス様に認めていました。それは、権威です。彼は、イエス様を、単なる癒し主あるいは教師以上のお方であると捉え、イエス様が、その御手の届くところ、あるいは、み声の届く範囲を超えた様々な力を支配することの出来るお方であると認めていました。イエス様は、この百人隊長の知恵に驚かれました。多くの者は、イエス様の癒しの力は信じていましたが、その権威は認めていなかったからです。

今日も、多くの人がイエス様を偉大な教師として称え、日々の歩みの中で癒しを請い願っているかもしれませんが、イエス様の、この世といのちに対する権威を認めるよう求められたら、どうでしょう。ためらうのではないのでしょうか。イエス様の癒しを求めるには、まず信仰が必要です。そして、イエス様の権威に身を委ね自らを明け渡すには、さらなる信仰が求められるのです。

讃美歌 15

祈 り 親愛なる主よ、あなた様の癒しと憐れみを感謝します。そして、みちからがあなた様の権威から溢れ出てくるものであることを常に覚えさせてください。あなた様の権威を認め、すべてを明け渡すことができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

タミー・ディットモア

カリフォルニア州 ニューバリーパーク

1月6日（金）

恐 れ る な

聖書朗読 マタイ 10：22～33

わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。

ヨハネ 14：27

私はバードウォッチングについて特に学んだことがないので、神様の造られた鳥を見分けることはほとんどできません。けれども、ハミングバードだけは私には特別な存在なのです。どう考えても、あの極めて小さな被造物が空を飛べるとは思えないのですが、飛べるのです。そして飛べるどころか、空中で静止しているような状態で餌箱から水を飲むこともできますし、あんなに小さなからだではそう遠くまでは飛べないだろうと思いますが、なんと800キロメートルほども止まることなく飛び続けることができるのです。

すずめは、価値のないものと思われがちですが、そんなすずめでさえ神様は目を留めておられます。彼らが地面に落ちる時もそれをご存知です。神様は、私たちに恐れるなどと言っておられます。私たちはすずめよりもずっと価値のある存在なのだからと。

子どもというものは、その父親がそばにいてくれる限り、恐れを抱くことはないのではないでしょう。どんなに高いところからでも、父親の腕の中にジャンプして飛び込んで行くものです。それは、父親が必ず受け止めてくれると信じているからです。

神様は、私たちがそのみうでに飛び込んでくるのを望んでおられます。そして、私たちのすべての考えにまさる神の平安を、私たちに与えてくださるのです（ピリピ4：7）。この平安は主が近くおられるとき与えられるものです。主は、私たちが不安や恐れを抱かぬようにと願っておられます。主に感謝を捧げましょう。それによって、私たちは恐れを克服することができ、また、主がそばにいてくださることに、私たちの思いが向けられるようになるのです。

讃美歌 289

祈 り 親愛なる主よ。私たちが恐れを抱かぬよう、あなた様が平安を与えてくださることを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ガイネル・トーマス

ニューメキシコ州 ポータレス

1月7日（土）

コ ラ ジ ン で の 大 い な る 御 業

聖書朗読 マタイ 11：16～24

この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行われた。しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。 ヨハネ 20：30～31

主がコラジンでなされた偉大な御業を挙げることができますか。不思議なことにコラジンは、主が「多くの大いなる御業」をなされた町の一つであったにもかかわらず、その御業は何一つ書き記されていないのです。イエス様がその町を訪ねられたことさえ記されていません。

イエス様がこの地上におられる間なされた御業は、ほとんど記録に残されていないのですが、主が今なお、なしておられる御業も、ほとんど記されることはないのではないのでしょうか。

主が祈りに答えてくださらない、あるいは、日々の歩みにおいて主が働いておられないのではないか。そのように感じることはありませんか。けれども、主は私たちの理解を遥かに超えて事を成し、私たちには見えない形で働いておられるのです。後で振り返ってみると、そのことに気付くこともあるかもしれませんが、後になっても気づかないこともあるでしょう。

私たちの置かれた状況が絶望的で、主でさえ肩代わりをしてくれないかもしれないと思えるようなとき、表面的なものに騙されてしまうものです。

主は十字架上で私たちを贖ってくださいました。私たちの醜さ、憎悪、恥ずべき思いの象徴を、善と愛と救いの象徴に変えてくださったのです。主は、私たちを救い、贖い、そして造り変えてくださいます。コラジンでなされたように、私たちの内に働いて、大いなる御業をなして下さるのです。私たちの歩みに、主が働いてくださるようお願いしましょう。

讃美歌 6

祈り 親愛なる聖なるお父様。私たちの心の目を開き、あなた様のご臨在、そして、私たちの内に働かれるみちからを覚えさせてください。どうか、心の目が見えなくなっていること、そして、信仰が未熟であることをお赦しください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

シャヤ・サリスバリー
オハイオ州 トレド

1月8日（日）

「 急 ぐ 」 と は ？

聖書朗読 マタイ 15:29～38

それから、イエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやされた。 マタイ 9:35

「急いでやらなければならないことがある。人生から楽しみがなくなるまで急ごう。私がしなければならないのは生きて死ぬことだけなのに、どういうわけか私は忙しさの中にいる」(Alabama「I'm In A Hurry」という曲の歌詞)。

私は、この曲を聞いて笑いました。この曲は特に私の夫を、そしてしばしば私自身を良く表しているからです。守らなければならない約束があり、料理しなければならない食事があり、こなさなければならない仕事があり、見守らなければならない子どもや観戦しなければならないスポーツの試合があり……。

あなたはこのような生きるイエスをイメージできますか？ イエスは人々を置き去りにして急ぐことは絶対にしませんでした。人々の必要を満たすことが、イエスにとっての優先事項だったのです。イエスにとっての重要事項は人々でした。イエスの心はいろいろなことをするのに急いでいました。時間は限られていたのです。

私たちの行くところ、どこにでも人々はいます。ほとんどはイエスを知らず、その癒しの御手を経験したこともありません。しかし、私はやらなければならないことがたくさんあります！ 私にはその人々の必要を満たすための時間がありません。他の誰かがその人々を手助けできる、してくれと思いますか？ あわれみは行いを伴った愛です。イエスは人々を愛しました。今でも愛しています。

『すべての人に対して・・・善を行いましょう。』(ガラテヤ 6:10)。神様の言葉は私の心に刺さります。私たちの優先事項はなんのでしょうか？

讃美歌 121

祈り 聖なるお父様。私の心に触れてください。イエス様のあわれみで私を満たしてください。私が忙しさを言いわけにして救うべき魂を置き去りにしてしまふことがありませんように。

イエス様の御名によりこのお祈りを捧げます。アーメン。

キャロル・ローズ
コロラド州 プエブロ